

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指 導	題名	ブルーベリー栽培における有機質資材の利用法
[要約] リンゴ剪定枝チップと間伐材チップはブルーベリー栽培におけるマルチ資材として利用でき、初期生育が良好となり、収量も増加する。 リンゴ剪定枝チップはブルーベリー定植時の土壌改良資材として利用可能で、生育が良好となり、収量も増加する。			
キーワード	ブルーベリー	マルチ資材	土壌改良資材
		技術部	園芸研究室

1 背景とねらい

リンゴを中心とした果樹園から毎年大量に排出される剪定枝と北海道に次ぐ林産県である本県で大量に産出される間伐材は貴重な有機質資源であり、有効な利用技術を確立することは重要である。

そこで、ブルーベリーにおけるマルチ資材および定植時の土壌改良資材としての利用法を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) リンゴ剪定枝チップまたは間伐材チップをブルーベリーの樹冠下に定植時以降毎年、厚さ 10cm 程度にマルチすることにより、初期生育が良好となり、累積収量が増加する（図 1、2）。
- (2) リンゴ剪定枝チップを同量の土と混合し、土壌改良資材として利用すると、生育が良好となり、累積収量が増加する（図 3、4）。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 本成果の供試樹は 2004 年 4 月に 1 年生苗のデュークを定植し、植栽距離は 5 × 1.25m としたものである。
- (2) 供試したリンゴ剪定枝チップは農業研究センター果樹園のリンゴ剪定枝をチップパー（Ribon 社製）で粉碎し利用したものである（図 5）。
- (3) 間伐材チップは森林組合から購入した赤松材のチップを利用した（図 5）。なお、岩手県における間伐材の流通量のうちスギが 75% を占め、アカマツが 12% となっている。
- (4) 有機質資材によるマルチの雑草に対する抑草効果は低い（表 1）。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

ア 適用地帯：県内ブルーベリー栽培地域

イ 対象者等：栽培指導者等

(2) 期待する活用効果

ア リンゴ剪定枝および間伐材の利用が進む。

イ 初期収量が確保され、経営の安定化が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H16-10) 果樹園におけるリンゴ剪定枝等利用技術の確立

(1000) 果樹園における剪定枝チップ等のマルチ利用技術の確立

(2000) ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良技術の確立

6 研究担当者

小野浩司 高橋司

7 参考資料・文献

- (1) 平成 18 年度岩手県農業研究センター研究成果「剪定枝粉碎機の特徴と作業特性」（研究）
- (2) 平成 16～20 年度岩手県農業研究センター果樹試験成績書（一部未定稿）

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

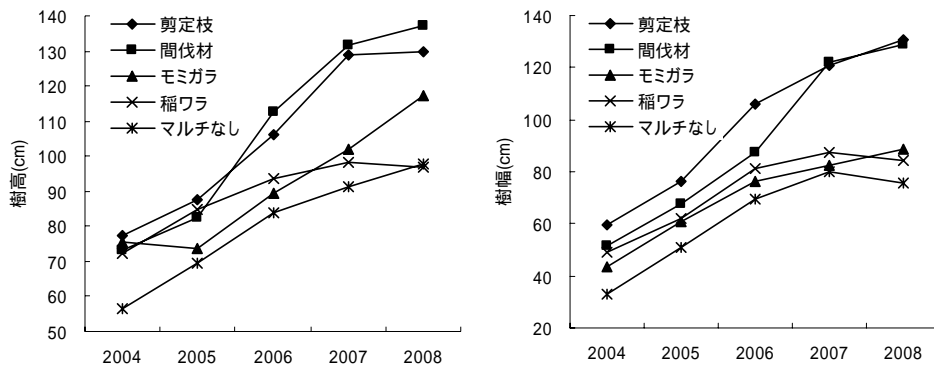


図1 マルチ資材別樹高(左)、樹幅(右)の年次変化

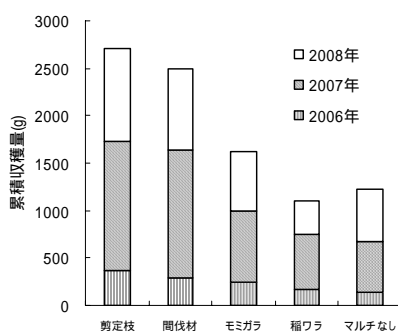


図2 マルチ資材別3カ年の累積収量（いずれの区も土壌改良材は使用していない）

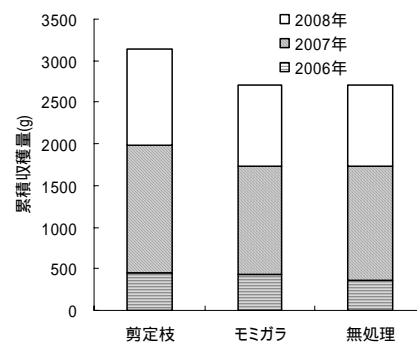


図3 土壌改良資材別3カ年の累積収量（マルチ資材としてリンゴ剪定枝チップを利用）



図4 土壌改良資材別ブルーベリーの生育状況(左から剪定枝、モミガラ、無処理)

表1 マルチ資材別ブルーベリー樹冠下の雑草抑制効果

マルチ資材名	生草量(kg/m ²)	
	2004	2005
剪定枝	1.2	0.9
間伐材	0.8	0.3
モミガラ	1.9	1.3
稲ワラ	1.7	1.3
マルチ無し	3.1	2.4



図5 剪定枝チップ(左)と間伐材チップ(右)